

札幌皮膚病理研究所 NEWS



2003年11月号

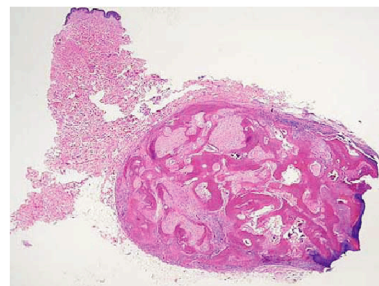
今月の症例



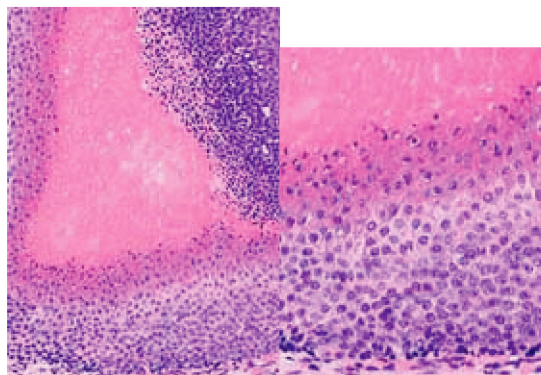
Pilomatoricoma

26才 女性 胸部

臨床診断: atheroma
病理組織診断: Pilomatricoma

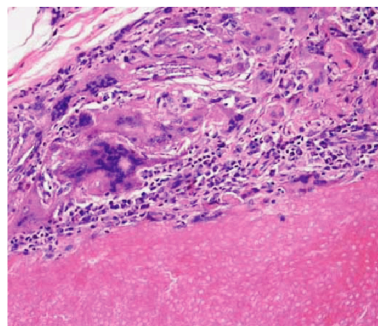


皮下に境界明瞭な腫瘍の形成が認められる。はっきりとした被膜は見られない。



腫瘍を構成する成分は外側から

- ① matrical cell [細胞質に乏しく、類円形で明瞭な核を有する]
- ② supramatrical cell (①と類似するが好酸性に淡染する豊富な細胞質を有する)
- ③ 移行帯 (核が pyknosis を呈し、細胞質がより好酸性に染色される)
- ④ shadow cell = cornified cell (核の部分が抜け(ghost)、好酸性の細胞質が残る)



腫瘍の周囲には異物型巨細胞の集簇を含む炎症性細胞浸潤が shadow cell の周囲に随伴する。

開催セミナーのご案内



皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座

手術切除されることの多い良性と悪性の皮膚腫瘍の病理組織所見を中心に解説し、手術方法や切除範囲を考えるための情報を提供します。

大阪会場 2003年11月16日(日)
福岡会場 2003年11月30日(日)

時間 10時より16時まで

皮膚外科に従事している、または皮膚外科に興味のある臨床医などを対象としています。ぜひご参加ください。

2004年開催セミナー(予定)

- ・研修医のための皮膚病理組織講座(東京)
- ・専門医のための皮膚病理組織講座(東京)
- ・皮膚病理診断ワークショップ(東京)
- ・第12回札幌皮膚病理セミナー
～世界の皮膚病理学～(東京)
- ・皮膚病理診断コンセンサスセミナー(札幌)
- ・皮膚腫瘍病理学講座(東京・大阪)

詳細が決まり次第随時ご案内いたします

◆第2回病理診断クイズ応募開始◆

ただいま当研究所ホームページにて好成績の方に賞品が当たる「病理診断クイズ」を開催しております。ぜひご参加ください。

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～
札幌皮膚病理研究所
〒001-0018

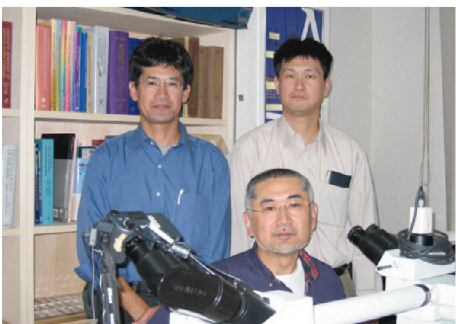
札幌市北区北18条西3丁目21-79:
TEL 011-756-4810 FAX 011-756-484:
E-mail office@sapporo-dermpath.com
Website www.sapporo-dermpath.com

What's new?

皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座（東京会場）
（10月5日）



皮膚病理研修生来所 山口淳先生
2003年10月1日より1年間



右奥；塩見 達志先生（札幌皮膚病理研究所）
左奥；山口 淳先生（琉球大学皮膚科）

ホームページにて「山口淳の研修医日記」公開中！！

新しいスタッフのご紹介



木村先生のご厚意により、10月より札幌皮膚病理研究所にお世話になることになりました。
こちらに来てまだ数週間しかたっていませんが、毎日沢山のことを学ぶことができ、とても充実した時間を過ごすことができます。初めて経験する札幌の冬も楽しみながら、札幌皮膚病理研究所、ならびに皮膚病理学の発展に貢献できる所員；塩見 達志 先生と一緒に勉強していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

Tatsushi Shiomi
所員；塩見 達志
病理専門医

今日の皮膚病理診断

その② カルテ開示と病理報告書

私は、病理報告書を患者の理解できる言葉と内容で書くようにしている。当研究所を利用している皮膚科医は、私の報告書を患者に見せたり、コピーして渡し喜ばれているという。

患者に理解してもらうためには、読みやすいように報告書がタイプ印刷された日本語で書かれている必要があるし、どのような病気なのかの簡単な説明もほしいと要望された。

さらに病理組織像の写真があれば便利とのアドバイスもあり、研究所報告書は臨床医用と患者用の2枚の病理組織写真を貼付している。

皮膚科の病名は難解なものが多く、病名から病態の理解は患者に困難な場合が多い。報告書のコピーと病理組織写真は、病理検査結果の患者への説明に役立つと評価されている。

カルテ開示の普及とともに病理報告書が患者の目に触れる機会が増えるのは必然で、近い将来には、現在のように臨床医からだけでなく、患者から報告書の内容について私への直接問い合わせも予想している。

そのためにも、皮膚病理報告書を書く機会のある病理科医は、報告書を読んで臨床医が患者にどう対応をするか想像できるよう、臨床皮膚科の動向にも関心を払う必要がある。

皮膚病理診断は、患者に最良のサービスを提供するため、皮膚疾患を対象とする臨床医の診療活動がより円滑に、より正確に、そしてより安心して行えるよう、病理医と臨床医が互いに協力・共同する作業といえよう。 2001年「北海道医療新聞掲載記事より」

その③ 皮膚病理学と皮膚病理診断学 に続きます

新たに論文が掲載されました

Sebaceous Adenoma（脂腺腺腫）の1例
西江 渉、木村鉄宣

皮膚科の臨床 45(10) 1259-1261

施設紹介

今回は、研修医ルームをご紹介します。



研修医ルームは4人部屋です。
各自に机と顕微鏡が準備されています。机の上と向かい側には本棚もあり、多くの本を収容できます。個人勉強に十分な設備です。
光ファイバーに接続したLANケーブルを利用でき、インターネットは常時接続で使用料無料です。
@sapporo-dermpath.comのドメイン名のメールアドレスも無料で提供します。
研修医ルームは土、日、祝日を含め24時間利用可能です。

今後のスケジュール

2003.10.25～26
学会参加；日本皮膚科学会西部支部学術大会
場 所；愛媛県県民文化会館

2003.11.6
講 演；九州大学医学部皮膚科カンファレンス
場 所；九州大学医学部

2003.11.8～9
学会参加；日本皮膚科学会中部支部学術大会
場 所；大阪国際交流センター

2003.11.16
セミナー；皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座
場 所；大阪市立大学医学部4階大講堂